

モツゴ (コイ科)

学名 : *Pseudorasbora parva*

別名 : クチボソ, ヤキ, モロコ, ヤナギザコなど

大きさ : 全長 8 cm

特徴 : 体型は細長く、やや側偏する。体色は基本的には銀色であるが、体側の黒色縦帯は稚魚や幼魚の頃に目立つ。産卵期のオスは黒から黒褐色を呈する。口は小さく上方に開口する。口ひげはない。同程度の大きさの小魚にタモロコがいるが、タモロコには1対の口ひげがある。

国内の分布 : 関東地方以西の本州、四国、九州が自然分布とされている。しかし、現在は移植などにより北海道から琉球列島まで分布している。

県内の分布 : 霞ヶ浦水系や利根川水系、那珂川水系、久慈川水系、県北地域の各河川など、県内各地の河川や湖沼に分布している。久慈川水系および県北地域の各河川では、近年、生息数が激減している（茨城内水試、未発表資料）。

県内での生態 : 産卵期は4~8月で、ヨシなどの水生植物の茎や水中にある杭や石などに産卵する。ユスリカ幼虫や動物プランクトン、付着藻類などを餌にする。ふ化後1年で全長約5 cmになり成熟する。霞ヶ浦では湖岸域だけでなく周辺の水路にも多い。

備考 : 霞ヶ浦周辺では佃煮に加工される。

主な文献 :

レイモン・アザディ (1983) 茨城の淡水魚. 筑波書林, 土浦. 95 pp.

霞ヶ浦情報センター研究委員会編 (1994) 霞ヶ浦の魚たち. 霞ヶ浦情報センター, 阿見町. 167 pp.

荒山和則・富永 敦 (2009) 霞ヶ浦の湖岸と周辺の堤脚水路におけるフナ仔稚魚の出現. 茨城内水試研究報告, 42: 1-7.